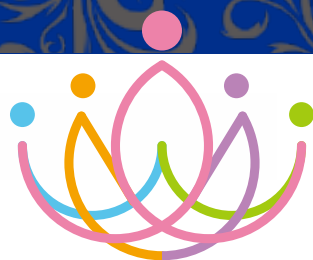


備後

教区報

第 176 号

2021(令和3)年12月30日



ご縁を慶び、お念仏とともに

CONTENTS

- ◇第25回平和のつどい
- ◇法話
- ◇ルポ コロナ禍における記録
- ◇News & 活用情報
- ◇予報・インフォメーション

親鸞聖人 御誕生

50
立教開宗
00



第25回 備後教区
平和のつどい

第25回備後教区 平和のつどい

福山リーデンドローズ

去る10月21日(木)、第25回目となる備後教区平和のつどいを、ふくやま芸術文化ホールリーデンドローズ小ホールにて開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温や手指消毒、マスクの着用等、感染対策を講じた上で、参加者を会場収容人数の半分に限定し、各組から僧侶・家族・門信徒約100名が参加した。



まず、全戦争犠牲者追悼法要を勤修し、水上義乗教務所長導師のもと、教区内若手僧侶に出勤いただき、参加者全員で正信念仏偈作法第2種をお勤めした。



▲香川真二上級研究員

次は、宗派にて製作された映画「ドキュメンタリー沖縄戦〜知られざる悲しみの記憶」を鑑賞した。映画製作に携わられた本願寺派総合研究所教学伝道研究室、香川真二上級研究員より、上映前には映画製作に至る経緯を、上映後には30分の講演をいただいた。沖縄の地に何度も赴かれ、現地の方々の戦争体験を聞かせていただくなか、決して風化させず語り続けていかなければならないこと、そして、戦争というものがあるが互いの欲望の衝突により引き起こされるものであり、お念仏のみ教えをお聞かせいただく私たちは、愚かさや自己中心性を抱え

ながらも、阿弥陀様の智慧と慈悲によって、常に我が身を省み、問い続けていくことが大切であるとお話いただいた。

講演の他、平和問題に取り組む一環としてスライドショーを実施し、今回は、ミャンマーの現状をメラウーキャンプ教育支援の会、小武正教代表(三次組西善寺住職)より伝えていただいた。

また、このたびのつどいでは、こどもたちの笑顔のために募金【9550円】、および本年度の豪雨災害における義援金(宗派たすけあい運動募金)【7914円】を募り、多くの皆さまにご支援とご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

映画鑑賞 「ドキュメンタリー沖縄戦 ～知られざる悲しみの記憶」



▲小武正教代表



▲ビルマ支援グッズの販売

私たちは、ある状況に慣れてくると、それになじみ、時に怠惰になったり、それを当たり前のこととして受け止めてしまうことがあります。

私は大学を卒業後、一般企業で数年間働き、その後、京都にある浄土真宗の専門学校、中央仏教学院で、2年間学ばせていただきました。そこでは、仏教や浄土真宗の歴史や教え、読経作法など、浄土真宗の僧侶としての基礎、心得を総合的に学ぶことが出来ます。そこで、伝道布教を教えていたいたある先生が仰っていた言葉が、今でもとても印象深いものとして残っています。その先生は、僧侶になろうとしている私たちに「人に頭を下げられるよりも、頭の下がるお坊さんであってください。そして、仏さまの邪魔だけはしないでください」と仰いました。私は19歳の時に得度をして僧侶となり、現在43歳です。私のような若輩者が人生の大先輩のご門徒の方々から「ご住職」、「先生」と言われて、頭を下げられる。ともすれば、私は、いつの間にかそのことに慣れてしまい、頭を下げら



寺正組東調御
乗興原柿



法話による使教布青年 第5回

身の下がる頭



れることを当たり前のように思い込んでしまします。そして、みんなは私に頭を下げている、私の話を聞いている、私がみんなに教えてやってる、と勘違いしてしまいがちです。

しかし、私は僧侶として、仏さまのお給仕、み教えを伝えるお手伝いをさせていただくという尊いお役目をいただき、お袈裟、お衣を着けさせていただいています。

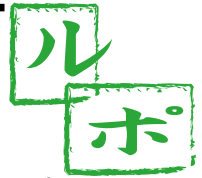
言ってみれば、仏法を喜ぶ方々はそのお袈裟、お衣に頭を下げられているのです。私は、偉くも何ともありません。むしろ、人に頭を下げられれば簡単に思いがかり、鼻が高くなり、仏さまのお手伝いどころか、お袈裟を利用して仏さまの邪魔をしてしまう可能性を沢山持ち合わせて生きているのが、この私です。

そう思う時、このように仏法を喜んで頭を下げておられるご門徒の方々のお気持ちに対し、私のほうが頭を下げずにはおれません。尊い役目をいただいている私は、

まさに私が仏さまの目当てであることを、皆さんと共にただただ有り難くいただき、私に出来ることを精一杯させていただきただけです。

私が仏法を教えているのではなく、私も皆さんと一緒に仏法をいただいています。私が仏道へと導いているのではなく、私も皆さんと一緒に導かれています。私が仏さまのお話しをしながらも、私も皆さんとともに聞かせていただいています。その中心はいつも、「私」ではなく、「仏さま」です。

偉くなってどんどん上がっていくのではなく、愚かな自分の姿に気づかされて、どんどん落ちても大丈夫なのが浄土真宗のみ教えです。それでいいのです。親鸞聖人は、「大悲無倦常照我」とお示しくださっています。どこまで落ちても、私は仏さまの大きな慈悲の中です。そうお聞かせいただくだけです。安心して落ちていきます。どこまで落ちてでも、私は、今この身このままで、仏さまに導かれ、生かされています。



今年夏、岡山県広島県ともに蔓延防止から緊急事態措置を実施すべき区域となった。(8月27日～9月12日まで、その後広島県は9月30日迄延長)

教区報専門委員会では緊急事態から報恩講の時期にかけて無作為による寺院状況の聞き取り調査を行った。

喉元過ぎれば熱さを忘れるというので、コロナ禍における記録の一つとして、現場の声を紹介してみたい。

(文責・教区報編集委員)

緊急事態宣言下の寺院

緊急事態宣言の当時、教区内の多くの寺院が「法座は完全にストップした」、「宣言が出た瞬間に休止を決めた(キャンセルの連絡があった)」と語られている。

蔓延防止のときには、厳しくとも時間短縮や一座だけで開催していた寺院も、さすがに今回は法座は休止という判断が多かった。

クラスター等がおこり感染者が増加した地域にある寺院では、「コロナ陽性者が増えて緊張自体が高まっていたところに、違うレベルに上がった」。「第5波、デルタ株が出て、社会全体がピリピリした

ような感じがある。」と、法座ができる空気ではなかったことを複数の寺院が語られている。

それまで、「感染者数、周辺の寺院の動向、雰囲気」といった要素で法座をすべきか判断していたが、「うちの寺は今後、緊急事態宣言下は法座をしない。それ以外はやる」と決めました。「緊急事態中は〳〵にします」というように、緊急事態という判断基準ができ、各寺のコロナに対するマニュアル、ルール化が進んだように感じた。また、「ご門徒さんが疲弊しているときは、いっしょに寺も疲弊してもいいかなと思う」と語られる住職もいらつしやるように、各寺の思いや覚悟が、浮彫りになってきたのかもしれない。

なお緊急事態宣言下でも、周辺に感染者がなく、ほぼ影響がなかったと語られる寺院もあった。

しかし、その多くは、「寺族で勤めた」、「講師は取りやめて住職自勤にした」、「中止にしたが、それでもお参り下さった門信徒があつたので勤めた」というように、最大限の縮小や注意をした上での開催だったようだ。

法座の形式について

コロナ禍で法座は次の3つに分類される対応が見受けられた。

- ① 「パンデミックが収まるまで休座する」
 - ② 「できるだけ従来通りの形でやる」
 - ③ 「形・スタイルを変えて行う」
- 今回の調査で聞き取りした中、3の工夫して変化させた法座形式や組大会の例を挙げてみたい。

座数を減らしての開催

- 朝席のみ、昼席のみ 1座
- 昼席+昼席 2日間 2座
- 夜席+朝席 2日間 2座
- 夜席+昼席 2日間 2座

1座あたりの時間を短縮

- 勤行 30分+法話 30分
- 勤行 10分+法話 50分
- ※お斎なし、休憩なし、が多い

飲食(お斎)の対応

- ・持ち帰り弁当に変えた。
- ・手作りをやめて外注した。
- ・飲食会場を本堂と会館(庫裏)の2ヶ所に分けた。
(分け方に決まりなし、先着順)
- ・縁側などに座って、お斎や休憩ができるようにした。

組仏婦大会(三次組 10月上旬)

- ・1単位につき3名の参加として33ヶ寺約100名の大会を開催
- ・会場を寺ではなく、200名収容のホールを借り、三密を回避
- ・参加できなかった人のために、後日DVDを各単位に配布した

開催状況の一例として、例えば都市部寺院は報恩講法座の様子見(休座)も多いが、法座を再開した寺も多かったという。

逆に山間部寺院は大多数が法座を開催する傾向があり、少数ながら従来通りの形式の法座を行った寺院もあったようだ。



今年も法座前におみぎ、餅つき、供物の手作り



余間に演台・TVに中継して法話と絵解き



世羅組法泉坊では、法座にコースをしいたのがコロナで練習も出来ず、地域の文化祭が中止のため、門徒さんの自主的な働きかけで秋の法座に「作品展」を開催した。寺で月1で行う「集い」の活動による作品も多く、草木染め、七宝焼き、写経、絵手紙、消しゴムハンコなどを展示した。

対応の是非に悩む

また、コロナ陽性になった方、あるいは濃厚接触者となったとき、どのくらいの期間で社会復帰をすべきか、ボーダーラインが様々で、「大丈夫」という方もあれば、「2週間でも早い」、「近寄るな」、「あれはない」という人もあり、その意識格差に直面し、困ったという例。「マスク警察」、「コロナ差別」といった一般市民が攻撃的になる場に直面すると、「寺院として同調して厳しく対応するべきか、柔らかく寛容に対応すべきか、その都度に悩んだ」という。

法座などについても、「私たちは戦争や差別の問題を後で評価判断してきたけれど、その真只中にある、判断するのが難しいというか、過酷であるというか、揺すぶられる、ということは切実に感じます」、「長年つたわってきた形は守らないといけないのでは」と思う一方、「周りの行事が中止のなかで寺だけがやっていいのか」、「それを貫きとおすことで、家族他に負担をかけてしまうようでは……」、「〇×の単純な話ではない」と、互いの意見を尊重する方が多いのも印象的だった。

コロナ禍で失われるもの

コロナ禍で簡略化・縮小が進み、法要や葬儀なども深刻な状況だ。

「かつて葬儀は講中などの近所の方が主体的に行い、親戚、僧侶、役所、火葬場の連絡から、通夜葬儀の司会進行、焼香、経典や曲ろくの送迎、お斎や立ち飯、仕上げなどの食事、四華花の作成や幕の飾り付けなど全て担っていた」少なくとも、田舎の葬儀は15年前くらいまでどこもそうだったと思う。それらがだんだんと変化していき、残っていた習慣もコロナで

無くなった感じは否めない。

コロナで昔のように家で葬儀をする事例も増えたが、中身は全く異なっている。それに伴い地元の寺院を呼ぶような、複数の僧侶が関わる形も急速に無くなってきた。

「このあたりも化教というものがあつたが、これが崩壊していくような……。葬式も一気に変わっていくのかな、存在意義というものが変わっていくのかな」と。

「今まで、周りを気にしながら、親戚をよびながら、法要をしていたものが出来なくなった」

と想っていたものが、一気に速度をあげて失われるように感じた。

しかし、コロナを理由に繋がりが関係が断ち切られているなかでも、かえって悩み事相談が増えたという寺院もあり、行事ができなくても積極的にチャレンジしている寺院、地域や人々の縁を結ぶ架け橋となっている寺院もあった。

困難でも法座を行い、「お聴聞できて嬉しい」、「法座やつてくれて、ありがたい」と声をかけてもらっている事例は本場に多いようだ。

これも寺院活動の励みとしたい。



News & 活動情報

布教団

「伝える伝道」から「伝わる伝道」

10月4日(月)、山口教区布教団担当にて、第4連区青年布教使研修会が開催された。

このたびは、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、オンラインにて開催され、参加者は各所属教区教務所より参加となり、備後教区からは17名が参加した。講師には、登尾唯信布教団連合同朋研修講師、岡村謙英副団長(山口教区邦西組照蓮寺)が出講され、「『伝える伝道』から『伝わる伝道』へ」

をテーマに講義を頂いた。参加者にとって、実りある研修会となった。



団子の盛り方(山吹)を学ぶ

勤式

10月12日(火)、本願寺備後教堂において、前期勤式研修会を開催した。

講師には、河元正博師(株式会社亀屋陸奥代表取締役、本願寺開明社、本願寺参与)を迎え、「本願寺御供物と亀屋陸奥」と題して講義をいただいた。



また、講師より団子(山吹)の盛り方を実演いただき、参加者はそれぞれ留意点等を書き留め、勤式研鑽の研修会となった。

御絵伝に親しむ

仏婦・寺婦



10月13日(水)、本願寺備後教堂にて仏婦と寺婦合同による実践運動研修会を開催し、30名の仏婦・寺婦会員が参加した。マスク着用等、感染防止対策を講じたうえで、人数制限を設け、午前のみの開催とした。

研修では、本願寺派布教使・田坂英尊師(芦田組慶照寺)を講師にお招きし、「映像を通して親鸞聖人御絵伝に親しむ」の講題のもと、聖人のご生涯を描かれた御絵伝について、映像や冊子を活用しながら分かり易くお話しいただいた。

毒ガス工場関連施設へー大久野島ー

同朋社会部会

去る10月18日(月)、同朋社会部会主催で竹原市大久野島にて環境問題現地学習会が参加者18名で開催された。

「大久野島から平和と環境を考える会」の山内正之代表に講師・ボランティアガイドを勤めていただき島を徒歩で一周しながら多くの毒ガス工場関連施設跡の解説をいただいた。巨大な毒ガス貯蔵タンク跡、象徴的な発電所跡、防衛要塞時代の砲台跡等、この島全体が日露戦争、第二次世界大戦、朝鮮戦争に関わってきた戦争遺跡そのものであり、さらに毒ガス製造に関わった方々が過酷な中毒症状、後遺症にさらされているながら救済措置が中途半端な状態のままであること、また島全体と周辺海域の残留ヒ素の存在が未だに解決されていないままであること、この島の毒ガス工場は、健康環境被害をもたらしただけでなく、製造された毒ガス兵器が中国大陸で実際に使用され多くの死傷者をもたらしている現状もなお健康環境被害に悩まされている加害の事実のあることを教えていただいた。



▶山内正之代表より説明いただく

途中、慰霊碑ではご本尊を据えて参加者全員で参拝読経しお念仏申させていただいたことを付け加えさせていただきます。へ報告・同朋社会部会部員へ



第1回「誰もがしあわせになれる社会に 人権を考えるため」 一子育て、児童相談の現場からー 同朋社会部会

宗門では、次代を担う念仏者育成のため人権学習を重要な柱として位置づけられており、その方向性に学び様々な人権問題に向き合うため、このたび2021(令和3)年度・2022(令和4)年度へ備後教区 新しい時代の念仏者養成のための「人権に関する連続研修」御同朋の社会をめざしてー【差別やいじめのない社会に】【全6回】を開催する運びとなった。

12月6日には、連続研修の第1回目となる「誰もがしあわせになれる社会に人権を考えるために子育て、児童相談の現場から」を本願寺備後教堂本堂にて開催した。

講師に辻由起子師(大阪府子ども家庭サポーター・大阪府子ども虐待防止アドバイザー)をお迎えした。

講義では、講師ご本人の実体験に基づくお話をいただき、グループワークを通じて参加者より多くの感想・質問が挙がり、講師よりひとつひとつ丁寧にご説明いただいた。

さらに、研修会終了後も個別相談を実施いただき、参加者にとって子どもの人権を考える学び多き研修会となった。

ビハーラ

暮らしの中の身近なビハーラ活動



去る11月4日(木)に山口教区引受けにて、第11回ビハーラ活動第4連区集会在オンラインにて開催され、備後教区からは自宅参加も含め7名が参加した。講演では、漢見覚恵先生(滋賀県彦根市純正寺)より「暮らしの中の身近なビハーラ活動(学仏大悲心に生きる、みんなの食堂ビハーラ)」、児玉頼幸先生(認定NPO法人山口せわやきネットワークこども明日花プロジェクト代表)より、「子どもたちが未来に希望を持ち続けることのできる社会をつくる」という題で、2名の先生から学んだ。

ともに、主な支援対象を子ども、ひいては地域において、子ども食堂の紹介や居場所づくりの重要性を先生方の経験を交えて講演をされ、これからは幅広い世代に向けて、ビハーラ活動としての寄り添う姿勢を広めていくことが大切だと学んだ。

ビハーラ

ビハーラ活動の基本視点



去る11月10日(水)に庄原市にある社会福祉法人相扶会の施設である養護老人ホーム寿園と特別養護老人ホーム相扶園にて、ビハーラ備後の実践学習として傾聴ボランティアを行い、5名が参加した。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ビハーラ備後での実践学習は中止となったが、この度、相扶会より快諾いただき、感染対策を万全としたうえで、この開催が可能となった。

午前中は、尾野義宗理事長より、「ビハーラ活動の基本視点」という題にて、今日の相扶会が設立されるまでの歴史とともに、人に寄り添うビハーラの視点についての講義が行われた。

午後からは、傾聴活動やコミュニケーションの練習として、相談を受けた時の対応の仕方をグループワーク方式で行い、まずは相手の感情に寄り添い、相談してもらったことに感謝する姿勢を学んだ。また、入居者への傾聴活動は、例年各居室にて行っていたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ホールにて行った。

真宗の近代史を手掛かりに

同朋社会部会

去る12月13日(月)、新型コロナウイルス感染症感染拡大による県下緊急事態宣言発出により延期となっていた本年度同朋講座を開催し、僧侶・門信徒、一般含め26名が参加した。

この度は龍谷大学、近藤俊太郎非常勤講師にお越しいただき、「真宗僧侶が抵抗するときー国家への問い、教団への問いー」と題し、先生が専門とされる仏教史学の観点から、主に真宗の近代史を手掛かりとしてお話をいただいた。



この度は龍谷大学、近藤俊太郎非常勤講師にお越しいただき、「真宗僧侶が抵抗するときー国家への問い、教団への問いー」と題し、先生が専門とされる仏教史学の観点から、主に真宗の近代史を手掛かりとしてお話をいただいた。

お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz

Radio BINGO

本願寺備後教堂報恩講法要



11月30日(火)、本願寺備後教堂報恩講法要を勤修した。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じ、初座・満座法要をお勤めした。

法要は、正信念仏偈作法第二種(初座法要)、廣文類作法(満座法要)を依用し、備後雅楽会の皆様による奏楽のなか、主管導師のもと初座法要は田坂英尊備龍会会長をはじめ会員の皆様にご出勤いただき、満座法要では奥組・御調東

組より各3名にご出勤いただいた。

このたびのご講師、藤井義英師(比婆組西教寺住職、本願寺派布教使、備後教区布教団副団長)より、「転ぜられて」と題してお取次ぎいただいた。

当日は、僧侶・住職永年表彰式を挙行し、ご出席いただいた対象者に主管より表彰状並びに記念品が贈られた。

法要並びに法話の様子は、枝廣

教区月報

10月 (October)

1日 仏婦連だより取材 (世羅組真行寺)

4日 第四連区青年布教使研修会 (WEB)

6日 臨時教区会

8日 同朋社会部会

11日 教堂常例法座

12日 前期勤式研修会

13日 仏婦・寺婦実践運動研修会

14日 中四国ブロック保育連絡協議会

15日 賦課基準等調整常任委員会

18日 環境問題現地学習会

19日 おつとめ教室・勤式練習会

21日 第25回教区平和のつどい

(福山リーデンローズ)

22日 門徒総代会世話人会

23日 全国真宗青年のつどい (WEB)

27日 第4連区門徒総代研修会 (WEB)

28日 教区・教堂会計検査 (29日)

11月 (November)

4日 ビハール第4連区集会 (WEB)

5日 子ども若者ご縁づくり推進委員会

9日 少年連盟役員会

門推世話人会

主管会議 (オンライン)

10日 ビハール実践学習



慶樹師(深津組崇興寺住職)の全面協力のもとYouTube配信を行った。
 教堂報恩講をお迎えするにあたり、仏華については、教区内有志による「仏華の会」の皆様が何日にもわたり準備され、本願寺開明

社「花新」水本敏雄会長監修のもと生けていただき、各尊前にお供えいただいた。
 お供物は、和泉裕生教区勤式指導員(神石組正光寺住職)を中心に準備が進められ、松井一昭氏(深津組 慶満寺住職)にお手伝いを

いただくなか、お供えいただいた。
 また、11月24日には、教区仏婦連盟役員の皆様に仏具みがき並びに障子の貼替を行っていただき、堂内を整えていただいた。

僧侶表彰受賞者一覧

住職在職30年

奥組 正善寺 平岡 大園
 深津組 眞光寺 尺采 理志
 深津組 正善寺 藤井 行夫
 沼隈西組 光満寺 赤柴 宏丞
 芦田組 明浄寺 立神 義昭
 御調東組 正典坊 近安 徹祐
 世羅組 真行寺 是山 宗憲
 世羅組 善仁寺 原 英順
 僧侶90歳

比婆組 西念寺 栗原三千枝
 比婆組 勝光寺 渡邊 恭信
 三次組 照林坊 明山耶須江
 御調西組 順勝寺 岩増 秀夫
 世羅組 光永寺 毛利 ヒナ
 世羅組 正蓮寺 伊藤 叡子
 世羅組 正蓮寺 伊藤 義照
 ※住職在職50年は該当者なし

今後の予定

1月(January)

11日 教堂常例法座
 17日 子ども若者縁づくり推進委員会
 18日 少年連盟役員会
 19日 おつとめ教室・勤式練習会
 21日 同朋社会部会
 25日 法式法務専門委員会
 29日 仏壮理事会

12月(December)

3日 門信徒部会
 6日 第1回人権に関する連続研修
 8日 広報伝道部会
 9日 FM放送専門委員会
 11日 青年布教使研修会
 13日 教堂常例法座
 15日 同朋講座
 17日 教区賦課基準等調整委員会
 21日 布教団役員会
 22日 組長会
 22日 教務所長・輪番主管会議(オンライン)

(寿園・相扶園)
 11日 教堂常例法座
 16日 おつとめ教室・勤式練習会
 24日 仏婦おみがき
 30日 教堂報恩講

予報 **Information**

第 28 回真宗講座

日時 **2022（令和4）2月2日（水）** 1時～4時

会場 本願寺備後教堂

講師 **安方哲爾** 先生 (大阪教区南郡組正満寺)

内 容 「教行信証【行巻】

参加費 僧侶 2,000 円 門徒 1,000 円

教区僧侶研修会

日時 **2022（令和4）2月22日（火）** 10時30分～
会場 御調支部 昭通寺 15時30分

会場 御調束組 照源寺

講師 本願寺派 深川宣暢 勧学（山口教区大津東組西念寺）

講題 「真宗教義の基礎知識―他力仏教の構造―」

对 象 教区内僧侶・寺族

参加費 2,500 円

門徒総代会研修会

日時 **2022（令和4）3月16日（水）** 1時～4時

会場 福山芸術文化ホールリーデンローズ小ホール

講師 本願寺派布教使 山下義円 師（奥組浄福寺）

参加費 1,000 円

※例年であれば担当組を設け南部・北部2会場にて開催しておりましたが、本年度は1会場での午後半日開催とします。

2月(February)

2日 第28回真宗講座

9日 憲法問題に関する研究会

11日 教堂常例法座

14日 全国布教使研修会

(オンライン)

常備会

17日
仏婦役員会

18日 第2回人権に関する連続

2
研修会

422
日 日
「二録」(一)十六
僧侶研修会(御調東組照源寺)

24 日 乙綴つくりサホー夕

5日 協議会
市改訂

2日 在教団音門別・実践道重石
修会、臨寺開修会

傳會 臨田石傳會

3月
(March)

3日 連研のための研究会

8日 得度講習会(～9日)

10日 得度考査

5月11日 教堂常例法座

15日 おつとめ教室・勤式練習会

16 門徒総代会研修会(リーテ

8日
三
月
改
正

5月18日 定期教区会
ハノエノ病

2日 ノンセン病理地学習

教化資料 Box

なるほど仏事(バックナンバー)
活用ください

- 第1回 法事の進め方
- 第2回 ご本尊
- 第3回 合掌・礼拝
- 第4回 報恩講
- 第5回 お墓(建碑式)
- 第6回 おつとめ
- 第7回 仏前結婚式
- 第8回 はじめてのご法座
- 第9回 焼香
- 第10回 弔辞・弔電・謝辞
- 第11回 花まつり(灌仏会)
- 第12回 法名



住職任免

おめでとう
ございます
〔敬称略〕

中組 南林寺

瀧本 文彦

(令和3年9月16日付)

教師授与

おめでとう
ございます
〔敬称略〕

芦田組 西福寺

山名 深(釋深信)

(令和3年8月20日付)

比婆組 正専寺

小滝 世信(釋世信)

(令和3年9月22日付)

慶弔

お悔み申し
上げます
〔敬称略〕

三次組 淨圓寺 前坊守

足利 静枝(10月16日寂)

沼隈西組 万福寺 衆徒

瀧谷 志穂(10月27日寂)

沼隈南組 南泉坊 前住職

岡部 詩朗(11月12日寂)

御調束組 法光寺 前坊守

季平 孝江(11月18日寂)

香典返礼

ありがとうございます
ございます

奥組 正善寺様

寄進

ありがとうございます
ございます

深津組光行寺門徒 坂本一彦様より
仏供米を寄進いただきました。

深津組光行寺門徒 出原陽一様より
報恩講仏華材を寄進いただきました。

神石組正光寺住職 和泉裕生様より
報恩講供物を寄進いただきました。

わたしゃ しやわせ
死なずにまいる
生きさせてまいる浄土が
なむあみだぶつ

浅原才市



お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz FM77.7MHz
Radio BINGO ラジオひんご

常例法座

(毎月11日)
出講者(敬称略)

1月

「浄土に生まれ仏になると
ご恩報謝で生きていく」

世羅町 正満寺 島津恵航

2月

「燦たりここにござる」

高梁市 浄福寺 山下瑞円

3月

「すくいとは？」

福山市 西光寺 箱田義信

全国真宗青年のつどい



去る10月23日(土)に浄土真宗本願寺派仏教青年連盟主催にて、「全国真宗青年のつどい(本山大会)」が開催された。本来であれば、京都の西本願寺に集っての開催が期待されていたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、ZOOMを用い、全国の参加者を繋いだオンラインでの午後半日開催となった。備後教区からは15名が参加した。

今回は、「・(テン)を繋いで○(エン)にしよう」というテーマであり、昨今話題のなぞ解き脱出ゲームが行われた。ランダムで全国の仏青メンバーとチームを組み、参加者同士の交流を深め、楽しめる機会となった。なぞ解きゲームは、西本願寺を舞台に境内地を巡りながら、歴史を知りヒントを探していく構成であり、オンライン上での参加は一人だけの・(テン)であったが、交流を通してなぞを解き、少しずつ○(エン)となっていくような繋がりを感じられる体験となった。

編集後記

年の瀬。振り返ってみて、読者の皆様にとってどの様な一年でしたか。私にとつては、とても濃い一年でした。コロナ禍に翻弄される日々。身の上で、天地が引っくり返るような出来事もありました。▲その様な日々で、大切にしている詩があります。

御仏を 呼ぶわが声は
みほとけの われを喚びます
みこゑなりけり

(甲斐和里子「草かご」)
▲この人生、待ったなし。順調な時もそうでない時も、それぞれの境遇、境涯を自分なりに精一杯歩ませていただきます。今こそ。阿弥陀様の御手(みて)のど真ん中。ということを忘れずに。

(Z・Y)

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、ご一報ください。

TEL (084) 924-5759
FAX (084) 931-9323